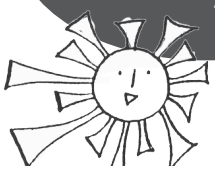
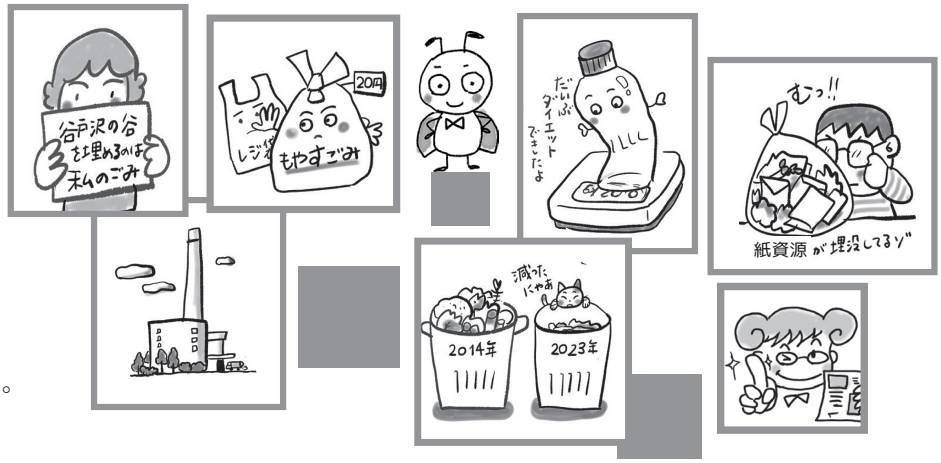
ごみかん
運営委員による
座談会

多摩地域のごみ問題と ごみかんの活動、30年を振り返る





今日は 2025 年 12 月 24 日。
年の瀬も押し迫ったクリスマスイブに
ごみかん運営委員委員が集まって…
多摩地域のごみ問題や
ごみかんの活動を振り返る
座談会をやろうということになりました。

ごみ・環境ビジョン21発足当初の活動

M　1998 年 5 月のごみかん設立当初は、ダイオキシン問題や環境ホルモン問題がクローズアップされていて、ごみかんもいち早く反応し、情報収集して解説する記事をごみっと・SUN で特集しましたね。

　翌年の 7 月にはダイオキシン類特措法が制定されたけれど、清掃工場でごみを攪拌して 800 度以上の高温で燃やすとか、塩ビ製品を代替品に替えるとかでなんとなく解決したみたいになってしまった。

E　2000 年には有志でドイツ視察に行き「ミレニアムのドイツから」を発行しました。その時、通訳をお願いしたのがまだ大学生だった田口理穂さん。翌年からごみかんドイツ特派員として「Riho のドイツだより」（その後「ドイツのエコあれこれ」）の連載をお願いしましたが、あれから 25 年も経ったなんて！　理穂さんはその後、結婚・出産・子育て。秋には一人息子の明くんが大学生とは、びっくりです。

M　2000 年には絵本「ゴミのへらしかた　いのちのまちをつくる」、翌年には絵本「ゴミのへらしかた　ドイツに学ぶ」を星の環会から出版しました。

　さらに 1998 年から学習指導要領で総合学習の時間が取り入れられたので、そこで使ってもらいたいと、教材「ごみ問題を子どもに教えるガイド」も出版して…。あの頃はごみかん編集担当としてほんとに忙しかったです。

E　同時に環境学習部会を立ち上げて「環境ビジョン座」を旗揚げし、あちこちの環境問題関連のイベントに呼ばれて寸劇などやったりしました。部会長の吉崎さんがシナリオから配役、劇団のプロデュース、営業活動と大活躍！

　日の出町のタヌキやサル、当時人気のゴマアザラシまで登場して練習に励んだっけ。みんな若くて元気だったなぁ。

2012 年 6 月に国分寺のカフェスローで開催した
「理穂さんを囲む会」。14 年前ですが、みんな若い！

多摩地域の最終処分場問題

K　そもそも、多摩地域がごみ減量の先進地域になった理由は最終処分場問題があったからです。

　1984 年から、多摩地域 25 市 1 町の一般廃棄物（可燃ごみの焼却灰と破砕処理された不燃ごみ）を埋め

立てていた「谷戸沢処分場」がいっぱいになり、同じ日の出町にふたつ目の最終処分場「二ツ塚処分場」がつくられましたが、「二ツ塚処分場の次はもうない」ということに尽きます。（二ツ塚処分場は1995年から工事が始まり、1998年に稼働）

E　そういえば30年前のちょうど今日、12月24日はちょっと思い出深い日なんです。

府中市にある東京市町村自治調査会の大会議室で、その二ツ塚処分場をつくるための処分組合議会が開かれて、これが通ったら建設にゴーサインが出されるというので、議場で7席しかない傍聴席を求めて「入れて！」と大勢で押し掛けた日だったんです。

M　そういう熾烈な反対運動を経て、これはもうごみを持ち込んでいる各自治体のごみ、つまり「私たちのごみ」を何とか減らさなくてはと考え、それがごみかん発足の原動力になりましたね。

O　埋立に関しては、自治体には処分組合（現・東京たま資源広域循環組合）から厳しく「アメとムチ」が課せられています。埋立処分の搬入配分量を上回ると超過金が徴収され、下回ると貢献金が分配される…というもので、非常にシビアですよね。

E　多摩地域の焼却灰は、2018年からは二ツ塚処分場にできたエコセメント化施設でセメントの主原料として使われているので「埋め立てゼロ」になりましたね。

だからいまは埋立量ではなく焼却灰の一人当たりの量で決まるわけですよね？　でも「うちの市は超課金を払っています」とか「貢献金をもらってます」というアナウンスは、行政は全くしていないですから、いくらくらいかかるのか、はっきりわからないですね。

そして、老朽化してきた日の出町・二ツ塚処分場のエコセメント化施設の改修工事も今年度から5年間かけて実施されて、年間100日は施設停止で、その間は焼却灰を埋め立てることになっています。稼働したら、掘り返してエコセメント化するそうです。

二ツ塚最終処分場と
その敷地内にある
エコセメント化施設

自治体の取り組み成果の見える化

O　多摩地域の特徴として、毎年、東京市町村自治調査会が発行している「多摩地域ごみ実態調査」があります。これによってごみ減量・資源化の取り組み成果が見える化され、多摩地域の自治体間の競争が促されてました。この調査は多摩地域のごみ減量・資源化に貢献していると思います。

ごみかんはこのデータを基に、多摩地域30自治体の取り組みを1位から30位までランキングして、さらに見える化してきました。

K　それを年3回、ごみっと・SUNで発表して毎回多摩30自治体に送付してきました。調べたら2012年9月からずっとやってきたわけですね。

M　先日、市のごみ対策課の人から、「送られたごみっと・SUNは職員みんなで回覧して読んでいますよ」と言われました。うれしいですよね。

E　我が家には1993年発行の多摩地域ごみ実態調査（H4年度版）からずっととってありますよ。すっかり変色しちゃったけど。

減量を促した家庭ごみ有料化

O　多摩地域では、家庭ごみ有料化が広まっていて、1998年に青梅市から始まって現在30自治体中、桧原村を除く29自治体で実施しています。

27自治体が戸別収集も採用して資源物分別を可視化し、ごみ減量を促しました。そして14自治体が高水準の家庭ごみ処理手数料（1ℓ当たり2円）を設定しています。

青梅市の指定ごみ袋
燃やさないごみ（オレンジ色）
もやすごみ（みどり色）
容器包装プラ（むさらき色）

さらに15自治体が高水準の事業系持込ごみ処理手数料（1kg当たり40～43円）を設定していますからね。

E　有料指定袋制はごみを減らす意識付けとなりましたね。ごみを減らさなければ、という意識がさほどない人にも効く対策ですからね。

いつ頃だったか、山谷先生が「人口約430万人の多摩地域をひとつの県と考えると、一人当たりのごみ排出量は全国でトップの少なさですよ」と教えてくれた時は、「あ、そうか！」と本当にうれしかったですね。

レジ袋の削減運動、そして有料化へ

M　ごみかんは、2003 年から「容器包装リサイクル法の改正」に向けて、店舗調査や駅頭アクション、「レジ袋削減！交流会 2005」さらに「容器包装削減! 交流会 2006 ～ 2009」と精力的に活動しました。

　特にレジ袋有料化は日野市が先行して全国を引っ張る形でしたね。

O　日野市では、2003 年から 2005 年までの 2 年間、マイバッグ運動として、毎月 1 回、午前と夕方の1日 2 回、市内スーパー 13 店舗の店頭でマイバッグ持参を訴えるチラシの配布やレジ袋辞退率調査をやりました。150 名の市民が参加した全国的にも類を見ない大規模な運動でした。

　市民の意識はかなり変わりましたが、レジ袋辞退率が 40％までいったところで頭打ちの感がありました。これはやはりレジ袋を有料化する必要があるということで、いなげや、アルプス、西友などのスーパーの本部へ、市の職員と市民がペアになって「レジ袋有料化」を頼みに回りました。反応は「他がやればうちもやってもいいが…」「サービスの低下ととられると困る」というのが多かった。それでもその後、いなげやが「うちがやります」と市にいって来てくれて、まずはいなげやの 3 店舗でレジ袋有料化が実現できました。

スーパー店頭でマイバック持参を訴える

M　本当に日野市の取り組みはすごかったですね。

　とはいえ、当時は「コンビニまで含めてレジ袋が有料になる日なんて来るのかな?」と、私はちょっと懐疑的でした。

　でも、2020 年 7 月1日に全国一斉のレジ袋有料化が実現しました。このタイミングでスタートしたのは「環境配慮型大会」を掲げた 2020 年 7 月開催予定の東京オリンピックが後押ししたということですよね。

　まだ日本はレジ袋をただで配っているのか、と言われたくなかったでしょうし。

メーカーとの容器包装削減交流会

E　2004 年当時、アサヒビールがペットボトル入りのビールを販売するというニュースに驚いて「何事ぞ！」と急遽、公開質問状を送ったこともありました。

M　結局、当面販売を見合わせる、ということになってやれやれでしたね。

E　「容器包装削減！交流会」には、花王、ハウス食品、キリンビール、味の素、ライオンなどのトップメーカーに毎回登壇してもらい、容器包装を減らすためにどんな企業努力をしているか、今後の課題は…など共有しました。

　あれは画期的だったと思います。

O　交流集会を継続したことで、それを参考にして業界団体でも同様な取り組みが始まりましたからね。

減ってきた食品ロス

M　そもそも家庭から出る可燃ごみの 3 ～ 4 割が生ごみですからね。さらなる可燃ごみ減量のターゲットは生ごみですよね。それと食品ロスかな。

O　食品ロス対策の基本は、未使用食品を捨てない（使い切る）、食べ残しをしない（食べ切る）、野菜や果物の皮、葉、茎などもなるべく食べるようにして、調理くずを減らす（エコクッキング）。

　食べ物を捨てるのはもったいないと、繰り返し訴えるとともに、具体的な削減方法をあげて周知していく必要がありますよね。

E　多摩市では、バスに乗っても車内放送で食品ロスの啓発をしているし、エコクッキングはもちろん、啓発事業をいろいろやっていますよ。

M　もちろんごみかんも、食品ロスをテーマにした市民ごみ大学セミナーを何度も開催しましたね。

　最初に食品ロスをとりあげたのは 2014 年 2 月のごみ大学で、講師は今や食品ロスジャーナリストの第一人者となった井出留美さんと農林水産省食料産業局の長野麻子さんでした。その当時は 632 万トンだったのが、2023 年度は 464 万トン（家庭系 233 万トン、事業系 231 万トン）になっているようですね。

井出留美さん

K　2001 年施行の「食品リサイクル法」の前の、2000 年度は 980 万トン（家庭系 433 万トン、事業系 547 万トン）だったというから半減以下です。特に事業系は大きな成果が出ていますね。

資源物の分別の徹底

M　容器包装プラスチックも汚れが落ちないもの以外は、ひと手間かけて汚れを取り除き、できるだけ資源化するように啓発していかないと。わりと簡単に可燃ごみに入れてしまう人、多いですよね。

K　小金井市は多摩地域で不燃ごみ量が多く、最下位なんですが、原因はいくつかあると思います。

　まず資源になるもの（小型家電など）も不燃ごみとして集め、収集後に資源として分けている。また汚れたプラスチックを可燃ごみではなく不燃ごみに入れることにしている。さらには、プラスチックの指定ごみ袋と不燃ごみの袋が一緒なので、不燃ごみの中にプラごみが 20%以上も入ってしまっている。市には再三、変えるべきだと訴えています。

O　容器包装プラスチックを分別収集している自治体は、全国的にはまだ 2/3 にとどまっていて、政令市では福岡市や千葉市などがまだやってない。

　多摩地域では 30 自治体のうち、あきる野市などを除く 26 自治体が容器包装プラスチックを分別収集しています。

M　東京 23 区も 2022 年 4 月1日 に「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（プラ新法）」が施行された後、スピード感を持ってプラスチックの分別回収が始まりましたね。

　いま、23 区のうち 21 の区でプラスチックを分別収集しています。（うち 8 つの区は容器包装プラスチックだけ回収し、13 の区は製品プラスチックも資源として回収）

プラ分別回収が始まることを知らせる江東区のポスター

　今現在、プラスチックを可燃ごみとしている2つの区も、足立区が 4 月から、残る世田谷区も 2030 年度中に分別回収を開始するとのことです。

O　23 区では半分以上の区が製品プラスチックも分別収集しているのに、多摩地域はまだ 11 自治体しか分別収集していません。これはあまり褒められた話ではないですよ。

E　雑紙は、分別が面倒で可燃ごみに入れてしまう人がまだ多いのではないでしょうか？雑紙を資源として出しやすくするにはどうしたらいいと思いますか？

M　行政が雑紙袋の配布をしてくれるといいですね。紙袋も昔ほど店でもらえないし、雑紙を入れるものがないから分別しない人は多いのかもしれません。

K　雑紙袋の配布は、年に 1 回でもいいと思うんです。それに入れて回収に出すのではなく、雑紙保管袋として使ってもらい、出すときはビニール袋で出してもいいとすれば増えると思うけれど。

O　いま実際に、雑紙をビニール袋で出してもいいとしているのは多摩地域では 4 市（武蔵野市、小平市、武蔵村山野、国分寺市）で、この 4 市では雑紙の分別効果が出ています。

　また、汚れている紙と特殊な紙（禁忌品）を除き、雑紙は小さな紙片から小まめに分別することをしっかり啓発して、雑紙を分別しやすくする必要があります。

行政から配布された雑紙を入れる袋（つくば市）

難しくなった焼却施設の更新

E　多摩地域では、可燃ごみが減っていく中で「焼却施設の建て替え」が進んだ結果、新しい焼却炉の規模はどこも縮小されましたよね。もう予備炉は造らなくなりましたしね。

K　多摩地域では焼却施設は 19 施設あったのが 14 施設になった。そして処理能力の合計では 2000t / 日もの縮小です。

E　全国的に見ても焼却施設が老朽化したが「もう建てられない」という自治体で、大きくごみ減量が進むということがあります。上勝町に象徴されるように小さい自治体は特にそうですね。

K　結局「ごみで困る」ということがないと、ごみは減らないね。小金井市は、焼却処理を他市にお願いせざるを得なかった期間が 13 年もありました。「ごみ非常事態宣言」が 15 年も続いた結果、市も市民も必死でごみ減量に励んで、ごみ減量では全国トップ（人口 10 万人以上 50 万人未満で）になったといういきさつがあります。

　今後も焼却炉の問題はついて回ります。日野、国分寺、小金井の 3 市で 2020 年に日野市に造った清掃工場（浅川清流環境組合）は 2050 年までしか使えないことになっていますからね。それ以降はもうどこにも用地はないわけです。そういうことを市民はほとんど知らないんですよね。

M　小金井市民はやっと清掃工場ができてホッとしちゃっています。それどころか、浅川清流環境組合はコロナ騒動が始まった 2020 年4月竣工なので、大きな式典もなくひっそりと稼働し始めたせいか、いまだに自分たちのごみがどこで焼却されているのか知らない市民もいるんです。

O　行政はそうした耳が痛い話もちゃんと広報をしていくべきですよ。2050 年なんてあっという間に来てしまう。「ごみゼロ」目標はしっかり伝えていかないと。

まだある可燃ごみの中の資源～生ごみ

O　多摩地域では、総ごみ量の 75%を焼却していて、この 10 年間でみると、総ごみ量も焼却ごみ量も 1 割程度しか減っていません。

E　燃やされるごみの中にはまだまだ資源があります。焼却ごみを減らす一番の近道は「生ごみの行政回収」だと思いますが、問題はコストなんですよね。

O　ごみ減量をさらに進め、生ごみの分別収集の財源を確保するための手段として、家庭ごみ処理手数料の値上げが不可欠でしょう。

　例えば、現在 1 ℓあたり 2 円のごみ処理手数料を 5 割アップの 3 円にすると、中堅自治体の場合 2 億円以上収入が増えます。

E　うわー！　いま多摩地域 14 市が 1 ℓ 2 円だけど、その先を行ってしまうんですか！　40 ℓ袋で 80 円が 120 円に、20 ℓ袋で 40 円が 60 円になりますが、

コンパクトになった立川市の新しい焼却施設

市民が反発しないでしょうか。

O　冷静に考えれば、毎月の袋代 400 円が 600 円になる程度だから、市民にも受け入れられると思いますよ。

K　大事なのは値上げ分の収益は一般会計に入れず、生ごみの行政回収など新たなごみ減量施策に使うこと。そして市民への丁寧な説明が不可欠ですね。

M　生ごみ資源化については、ごみかんは「生ごみリサイクル交流集会」を 2009 年にスタートさせました。そこから 2019 年まで毎年開催して、市民、行政、業者、学識者などいろいろな方の「生ごみ資源化」の話を聞くことができましたよね。

E　情報の共有化は大事でお互い刺激し合って、自家処理のみならず生ごみの行政回収に取り組む自治体も増えてきましたよね

O　多摩地域では、現在、モデル事業も含めて 6 市で生ごみの分別収集をしています。生ごみ分別収集モデル事業では、全市的に希望者を募っているようですが、自治会単位で募集するやり方もあります。

まだある可燃ごみの中の資源～その他

K　「家庭ごみ有料化」に伴って、「分別品目の拡大」が大きく進みました。可燃ごみの減量に必死な小金井市では、缶ビールのマルチパックや裏がアルミの紙パック、レシート、防水加工をしたカップなどの難再生古紙も可燃ごみに入れてほしくないので、公民館や市役所などの拠点で集めています。

　難再生古紙の回収量は、いまは年間 10t ぐらいとだいぶ増え、難再生古紙をトイレットペーパーに生まれ変わらせる技術を持つ川崎市の製紙会社コアレックス（株）に運んでいます。でも、難再古生紙の資源化は、他市に広がる気配はないですよね。

O　古紙回収業者は難再生古紙はお金にならないからいい顔しないんですよね。

K　さらなるごみ減量のために必要なのは、やはり資源化対象物の拡大ですよね。生ごみをはじめ、廃食用油、紙おむつなどは燃やさずに資源にできる物として積極的に資源化に取り組んでいく必要があるでしょう。

O　いずれにしても、焼却ごみをいかに減らしていくか、今後もすべてにおいて啓発や広報が重要だね。

M　ということは、ごみかんが解散しても、まだまだごみから手を引くわけにはいかない、ということですね。